

続・3つの「ワーク」①振り返りと「糊代」

企業経営漫談士 岡野実空

先の『三々な経営』で、大きな反響があった「ライフシフト」シリーズ。特にその③「3つのワーク」には、皆さんからさまざまな感想や意見が寄せられました。その後、筆頭の「ヘッドワーク」だけは、『「よ・つ・や」頭を鍛える』で取り上げましたが、その他の2つは未整理のままでした。その続きに当たる今回は、まずこれまでの内容を再確認し、次に3つ「ワーク」の「糊代」を考えます。(次回「フットワーク」、次々回は「ネットワーク」の予定)

その1: 3つのワーク

『三々な経営』の「ライフシフトの必要条件③」(E-6)で取り上げた、「ヘッドワーク」「フットワーク」「ネットワーク」の「3つのワーク」。上記の通り、それらに関して、実に多くの方々からさまざまなコメントをいただきました。

そこから読み取れるのは、3つの「ワーク」のバランスを欠く、各社の個人および組織の実態。「知識」を活かして社会に貢献するには、その「偏重」ではない「ヘッドワーク」に加え、各自の「フットワーク」と、それを補完し、個人では到底不可能なことを実現する、「ネットワーク」が必須です。しかし現場では、それに逆行する動きが目立ち、「知識社会」に対応するマネジメントとは程遠い、その実情が浮き彫りになりました。またそれに追い打ちをかけたのが、いまのコロナ禍です。

その2: ヘッドワーク「よ・つ・や」

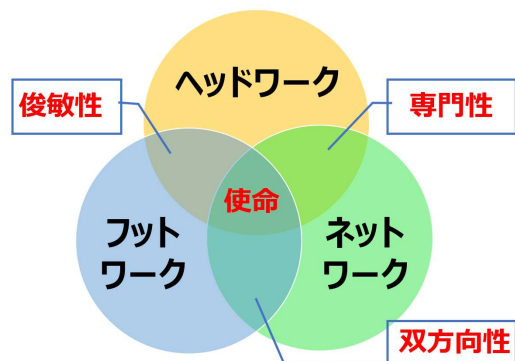
ところでいつの世も、良き社会人の原動力は「ヘッドワーク」。社会に貢献するという「つよい」意志を保持するためには、まずそれに相応しい「使命」を見出すことが先決です。そして「よく」学び、その「ビジョン」実現に向けた、「よい」方法や段取りを考えねばなりません。また問題に突き当たれば、他の分野からヒントを得て、その隘路を突破するという、「やわらかい」思考も必要になります。

以上は『「よ・つ・や」頭を鍛える』(3-2)の要約ですが、そこでも特に強調したように、いまの「知識社会」においては、一見関係なさそうなことから「価値」を見出し、自らの業務に転用する能力が、ますます重要になっています。しかもICTの発達によって、所属の組織だけでなく、業界や地域、国などという従来の枠を飛び越え、予想もしなかった解が導かれる時代になったのです。

その3: 3つの「ワーク」の糊代

さて今回のコラムで特に強調したいのは、3つの「ワーク」の『糊代』。それが個々の「ワーク」を有機的に連結し、個人および組織にとって特に貴重な「体系知」をもたらすからです。

Z-07 3つの「ワーク」と「糊代」



その一つ目は、「ヘッドワーク」と「フットワーク」をつなぐ『俊敏性』。「知識」を得るばかりでなく、それを賢く迅速に進化させる動きです。

二つ目は『専門性』。それは「ヘッドワーク」と「ネットワーク」をつなぐ「知識」の架け橋です。

そして三つ目は、『双方向性』。それは個人の「ヘッドワーク」「フットワーク」と組織内外の「ネットワーク」を緊密につなぎ、その往復から飛躍的な相乗効果を引き出すのです。

“SDGs”という大枠が決まり、「百年河清を俟つ」ことなく各国が動き始めたいま、私たちは社会のあるべき姿実現に向け、直ちに動き出さなければなりません。

その第一歩は、ICT を絡めた3つの「ワーク」と「糊代」の見直し。そしてその議論をつうじて、個々人の「価値観」や「強み」を理解し合うばかりでなく、「組織」の「使命」や、コロナ後の「ビジョン」を共有しなければなりません。

「コロナ禍を転じて福と為す」ことができるか否かは、3つの「ワーク」と「糊代」の優劣にかかっているのです。

2021年2月8日 実空

☞『三々な経営』E-6「ライフシフト」の必要条件③3つの「ワーク」3-2 「よ・つ・や」頭を鍛える